

# 「気づき」がスタート!

「あれっ?」「おや?」と思う感性  
・園児、児童、生徒の様子から話し方・聞き方・目線・集中力  
・ノート書き方・発言のしかた  
・友だちとの関わり方  
・時間の使い方  
・給食時のようす  
・掃除のしかた  
・持ち物・服の着方 など

P4へ

担任・担当者等

一人でなやまず、だれかに相談を。  
支援コーディネーターに知らせましょう。



相談情報共有

校内巡回で  
「あれっ?」「おや?」と思う子がいないかを定期的に巡回します。

保護者

保護者の困り感  
家での子育てに悩んでいる。  
このままでいいのか心配だ。  
保護者の期待や要望  
子どもに合った支援をしてほしい。  
専門的な人に見てもらいたい。



まず、保護者に寄り添う気持ちで相談を受けましょう。  
安心してもらうことが必要ですが、相談後に学校の具体的な動きが伝わるようにすることが大切です。  
また、学校からその後の様子

相談

支援教育コーディネーター

P6へ

担任・担当者と支援教育コーディネーターでアセスメント(実態把握)をしましょう。

どんなときに気になる行動があるのかな? 行動の記録をとってみる。

P7へ

まず、校内委員会で話し合い、学校の共通理解が得られた後、  
校内の支援では改善が見られない場合  
対応の仕方がわからない場合  
有効な支援の方法を知りたい場合  
などは外部機関と連携することも有効です。

しっかり実態把握してから事例検討しましょう。  
事前に報告内容をまとめてポイントがわかるように

複数の人の目でアセスメントを行うことが大事です。

校内委員会  
支援教育コーディネーター中心に全教職員でアセスメント(実態把握)をもとに事例検討します。

P14へ

校内委員会

ひき寄せ

羽曳野市巡回相談  
「教育相談票」に必要事項を記入し、学校教育課に提出内容を聞き取り、リーディングスタッフで対応者を決める。  
羽曳野市リーディングスタッフや、専門家チームで対応日程を調整して巡回相談を実施  
終了後、教育相談報告書を学校教育課に提出

P28へ

支援の必要な子には担任や担当だけでなく学校全体として、さまざまな場面で共通した支援をすることが大切です。

学級・学年・学校全体での支援

共通理解

依頼先が明確



通常学級での支援  
P16へ

支援学級での支援  
P20へ

通級指導教室での支援  
P24へ

他の外部機関への依頼  
「教育相談票」の内容によって他の機関につなぐこともあります。  
(例) 富田林支援学校・藤井寺支援学校  
羽曳野支援学校  
聴覚・視覚支援学校  
ばんびーの  
ひまわりコール(教育研究所)

P35へ